

【特集1】

被災地をもっと元気にするには？

地域貢献イベントIPU*~復興ガールズ*~の取り組み

【特集2】

いわてGINGA-NETプロジェクト

IPU-研究室へようこそ!

IPU TOPICS

地域をつくる希望の星たち

アイーナで学ぼう!



甲斐谷望の アイーナ学ばば!

「岩手県立大学アイーナキャンパス」は、県民の皆さんが大学の授業や講座に参加できるサテライトキャンパス。専門的な知識はもちろん、暮らしや健康に役立つ知識など、内容も盛りだくさん。本学卒業生でIBCアナウンサーの甲斐谷望さんが、講座の様子をリポートします。

今回の講座「いわて善隣塾 パソコン・ステップアップ講座」

講座スケジュール

10月
[IPU情報システム塾]
 ●Androidアプリケーション開発コース[1日(土)]
 ●Webアプリケーション開発コース[8日(土)・15日(土)]
[岩手県立大学盛岡短期大学部社会人リカレント講座]
 ●管理栄養士国家試験受験準備講座[8日(土)・15日(土)・22日(土)]
【いわて善隣塾】
 ●パソコンステップアップ講座[19日(水)・26日(水)]
 ●初めての百人一首[26日(水)]

11月
[IPU情報システム塾]
 ●Webアプリケーション開発コース[5日(土)・12日(土)]
 ●Webクライアント先端技術コース[19日(土)・26日(土)]
[岩手県立大学盛岡短期大学部社会人リカレント講座]
 ●管理栄養士国家試験受験準備講座[26日(土)]
【いわて善隣塾】
 ●初めての百人一首[16日(水)]
 ●パソコンステップアップ講座[16日(水)]

12月
[IPU情報システム塾]
 ●Webクライアント先端技術コース[3日(土)・24日(土)]
[岩手県立大学盛岡短期大学部社会人リカレント講座]
 ●管理栄養士国家試験受験準備講座[3日(土)・11日(日)]
【看護技術に関する相談・支援事業】
 ●舌痛緩和ケア[10日(土)]
 ●ME機器管理のポイント[10日(土)]
【いわて善隣塾】
 ●初めての百人一首[21日(水)]
 ●パソコンステップアップ講座[21日(水)]

※以上の講座の他に、【不妊・遺伝相談】【赤ちゃん相談室】【高齢者健康相談】【生活習慣病療養相談】を、定期的に開催しています。
 ※講座の詳細、お問い合わせについてはホームページでご確認ください。

岩手県立大学アイーナキャンパス 検索

初心者対象の「パソコン・ステップアップ講座」では、メールやホームページの活用の仕方、ワープロソフトの基本を楽しく教えます。この講座は、NPO善隣塾と岩手県立大学ソフトウェア情報学部による「いわて善隣塾プロジェクト」の取り組みの一つ。詳しくはホームページをご参照ください⇒<http://zenrinan.sd.soft.iwate-pu.ac.jp/zenrinan/intro/index.html>

スタート!

講師はソフトウェア情報学部准教授の堀川三好先生。丁寧な説明と優しい語り口が魅力。

どんな作品ができるかな?

作業の途中で質問がとぶ、のびのびとした雰囲気です。

今日は、6回講座の中の4回目。「ワープロソフトでチラシやポスターを作る」方法を学びます。受講生は女性が多いようです。

どんな質問でも、いねいに指導してくれます。

質問するとすぐに堀川先生が答えに来てくれるので安心。

休憩時間には互いに教え合う姿も。

完成!

堀川先生が用意した例文が、文字の色を変えたりイラストを挿入することで、こんな楽しいチラシ文書に大変身!

親切に教えてくれるので初心者でも安心。あなたも参加してみませんか。

【岩手県立大学アイーナキャンパス】いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階 〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1

編集後記

特集1で取り上げた「地域イベントIPU*~復興ガールズ*」。誌面で紹介できなかった二面と注目したいのは、そのPRにおけるバイタリティーの高さとセンスの良さ。活動をPRするために地元報道機関へ飛び込みの取材依頼を行い、テレビやラジオ、新聞などでしっかりと報道してもらったほか、試食サイトと連携して動画を作成したり、最近話題のソーシャルネットワーク「Facebook」でも活動を紹介するページを公開したりと、行動力の高さ、手段の幅広さ、そして内容の濃さにはただただ感服するばかり。今後の活躍にも大いに期待したいものです。

特集1といえは、本学公式ツイッターと連動したアイデア募集もスタートしたので、どんどん参加していただきたいと思っています。(T・S)

震災から半年が過ぎました。今号では、被災地と学生をつなぐボランティアプロジェクト「いわてGINGA-NET」を特集しています。大規模な災害が起きたたび、ボランティアに注目が集まります。災害発生後すぐ必要とされるのはもちろん直接的な支援ですが、現在本学の学生ボランティアセンターが行っているのは、主にボランティアする側・される側を「なぐ」という活動。彼らは普段の活動のなかでノウハウを培い、被災地でボランティアセンターを立ち上げスキルを蓄積し、常にニーズを見据えて活動してきました。今回の全国規模のプロジェクトを遂行できているのも、彼ら自身の行動力に負うところが非常に大きいということを、読み取っていただくと幸いです。(T・O)

東日本大震災津波から、約半年。被災地では、

徐々に復興への歩みが進む中で、

「岩手のために何かしたい」と

立ち上がった学生たちがいます。

その名は、「復興ガールズ」。

総合政策学部の女子学生による

復興支援の取り組みを

ご紹介していきます。

自分たちも何かしたい！

被災地支援のために

『復興ガールズ』を結成。



被災地をもっと元気にすることは？

「仕事の復興」をサポートすれば 企業も地域ももっと元気にになります。



復興ガールズの企画イベント
「いわて復興フェア」～今こそ、私たち手をつなごう～
 【開催日】9月16日(金)・17日(土)
 【場所】いわて銀河プラザ(東京・銀座)
 【内容】わかめを使用したレシピの紹介、宮古のわかめ販売、海産物販売、宮古のカレー販売、裂き織りの織物・パン販売、高田松原の松で作ったオリジナルキーホルダーの販売
 【協力企業・団体】いわて試食サイト(盛岡市)、盛岡手づくり村(盛岡市)、スタジオ・サボ(盛岡市)、早野商店(岩泉町)、ハックの家(田野畑村)、カリール(宮古市)、三陸鉄道(宮古市)



- 1 「ハックの家」で出品商品の打ち合わせ。盛岡手づくり村と早野商店の担当者さんも顔を揃えた。
- 2 被災地の様子をしっかりと受け止めるために、「高田松原を守る会」の方に陸前高田市の市民の思いを聞く。
- 3 高田松原の松を利用してオリジナルキーホルダーを制作。デザインも学生たちが手作り、売上の一部を被災地へ。
- 4 キーホルダーを入れる袋を制作する学生たち。思いを込めて一つひとつ、丁寧に作業していく。
- 5 東京のイベント前に盛岡手づくり村にも出展して、プレ販売を実施。お客様の反応を直接聞くことも勉強のひとつ。
- 6 9月16日・17日、銀座のいわて銀河プラザで「いわて復興フェア」を開催。多くのお客様でにぎわい、被災地商品の売れ行きも上々。

最初に相談に行ったのは、県立大
 学にご縁のあった盛岡手づくり村の
 佐々木雷蔵さん。彼の協力で企業や
 団体をピックアップし、交渉をスタ
 トしました。「目的は何か？企業の
 メリットは何か？と、厳しく聞かれ
 ました。企画書に何度もダメ出しを
 もらったり、手数料など具体的な点
 を指摘されることも多くて…。自分
 たちの甘さを痛感させられました」
 と、サブリーダーの阿部さん。

「できるだけ現地に足を運んで、話を聞くようにしました。商品の背景、被災地の思いを、きちんと東京の人に伝えたいと思って」と、野中さん。被災地で聞き取った内容は会場にパネル展示、多くの来場客の注目を集めました。「東京のイベントはつの通過点。今後いろいろな場を活用して、被災地の商品をPRしていきたいですね」。復興ガールズの復興支援は、まだ始まったばかりです。

「できるだけ現地に足を運んで、話を聞くようにしました。商品の背景、被災地の思いを、きちんと東京の人に伝えたいと思って」と、野中さん。被災地で聞き取った内容は会場にパネル展示、多くの来場客の注目を集めました。「東京のイベントはつの通過点。今後いろいろな場を活用して、被災地の商品をPRしていきたいですね」。復興ガールズの復興支援は、まだ始まったばかりです。



リーダー 野中 里菜さん



サブリーダー 阿部 夏美さん

企業の厳しい指摘に
自分たちの甘さを実感、
プロセスの全てが勉強だ。

「まけるもんか 日本! NEVER GIVE UP GANDARUMA」

【協力企業からのメッセージ】
 有限会社とりもと 小幡 勉さん
 震災で宮古も大きな被害を受けました。うちの場合は町中にあつた焼き鳥店が全壊。しかし、レトルトの製造とカレーの販売をやっていた店舗だけは最小限の被害に止まり、3月末から店を再開しています。今回、県立大学の学生さんからイベントの話があり、地域のことを目を向けようとする気持ちに心を打たれました。でもやる以上は、たまたま売ってくれるだけじゃいけない。しっかり商品を理解し、お客様に売ることの大変さを実感してほしいと思います。試食販売を体験してもらいました。彼女たちのように地域のために動くことは、とても素晴らしいこと。今回のイベントの経験を活かし、社会のために働く人になつほしいと思います。



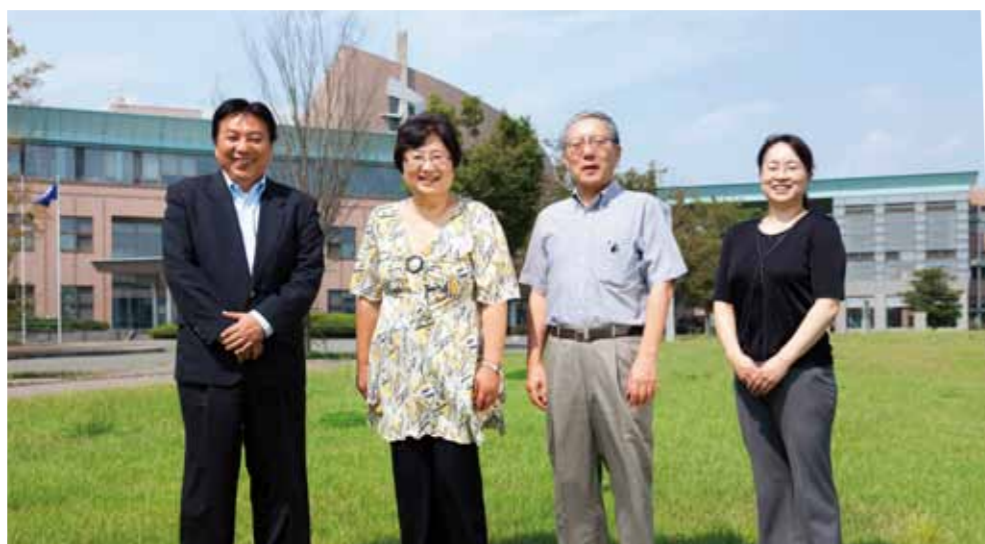
近々、すべて県産の食材でつくる「イーハート」のチキンカレーを発売するなど、新たな動きを始めていくと話す小幡勉さん。

地域貢献イベントIPU*～復興girls*～の活動は face book でご覧いただけます。
アドレス http://www.facebook.com/groups/183511801720881/#/fukkougirls

※「IPU-E PROJECT」とは、文部科学省から「大学の就業力育成支援事業」に採択された事業のひとつ。学生自らの企画力や行動力により、就業力の獲得を支援するものである。具体的には、学生でチームを結成し、プロジェクトを考案。学内審査の後、大学が活動費(最大30万円)を助成するもの。

「IPU-研究室」へようこそ!

岩手県立大学は、地域のシンクタンク。学内では日々、様々な研究や教育活動が行われています。こちらでは、大学全体を大きな研究室にみたくて様々な研究教育活動をご紹介します。



研究代表者 / 小川 晃子
(地域連携本部副本部長・社会福祉学部教授)

高齢者・障害者を支援する情報ネットワークのあり方、地域における福祉・医療の情報連携を研究。2007年、「Lモード電話を活用した安否確認システム」で日経地域情報化大賞・日本経済新聞社賞受賞(共同)。

【研究参加メンバー】

- 狩野徹(社会福祉学部教授)
- 細田重憲(社会福祉学部准教授)
- 千田睦美(看護学部講師)
- 佐々木淳(ソフトウェア情報学部准教授)
- 植田真弘(宮古短期大学准教授)

地域政策研究センター 「震災復興研究」

今回の研究テーマ

被災地におけるICTを活用した生活支援型コミュニティづくり

電話で「つながる」ことで被災者の孤独をやわらげる。

仮設住宅では、一人暮らしの高齢者などによる孤独死の増加が懸念されます。また、高齢者は移動手段がなく、買物についても不便な状況にあります。そこで、小川晃子教授を代表とする研究チームでは、これまで取り組んできた「ICT(情報技術)を活用した生活支援型コミュニティづくり」プロジェクトの試みを、被災地に応用する研究を始めました。これは、固定電話や携帯電話などを使って、高齢者の安否や状況を確認できるシステムで、仮設住宅に暮らす孤独感を軽減し、見守りや生活支援のできる新たな体制をつくるものです。県内では野田村、宮古市田老、大槌町、釜石市、盛岡市で試みがスタートしています。



仮設住宅の見守り拠点となる大槌町サポートセンター「和野つなみ」。

お年寄りの見守りを中心に買物や送迎等の生活支援も。

具体的な仕組みを説明しましょう。高齢者は、固定電話や携帯電話を使って、「1.げんき」[2.少しげんき] [3.わるい] [4.話したい]のボタンの中から、自分の状況を発信します。これを仮設住宅を訪問する生活相談支援員や仮設住宅併設支援センターが受信し、毎日の状況を把握。連絡のない場合は高齢者に電話をかけ、様子を伺う仕組みです。また、「話したい」ボタンを押せば、買物や送迎などの生活支援ができる体制づくりを進めています。これは、単なる安否確認や生活支援ではなく、住民同士の交流やコミュニティづくりを後押しするもの。被災者の孤独を防ぎ、新たな共同体を築く研究は、災害対応モデルとして注目されています。



それぞれの取り組み状況を報告し合うプロジェクト会議

地域政策研究センターの復興への取り組み

地域政策研究センターでは今年度から「復興研究部門」を立ち上げ、復興支援に関わる教員の研究活動を支援。暮らし分野・産業経済分野、社会・生活基盤分野の3分野のプロジェクトに取り組んでいます。今回ご紹介したものを含め、全15課題について、平成23年～24年度の期間で研究が行われます。

被災地を元気にする「復興ガールズ」の活動はいかがでしたか。県立大学では、このような地域課題を解決する取り組みを、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。そこで次号の特集から、新たな試みをスタートします。地域の未来を皆さんと共につくるための第一歩です。



写真は、被災した陸前高田市の高田松原。復興ガールズは、被災地の状況を確認するために高田松原を訪れ、人々の思いを県外に届けた。

「広報誌」×「twitter」連動コーナー誕生!

今回(第49号)からリニューアルした大学広報誌「IPU MAG」、そして新たにスタートしたtwitter「公式アカウント @IPU_official」。この2つを組み合わせ、皆さんの声を募集する新コーナーをつくりました。「特集1/県立大×地域プロジェクト」と連動し、皆さんの声を取り入れていく仕組みです。募集するのは次の2つ。

- ①「お題」(次号の特集1テーマ)に対するアイデア
 - ② お読みいただいた特集へのご意見・ご感想
- お寄せいただいたアイデア・ご意見は、次号の誌面に取り入れていきます。
@IPU_officialをフォローして、以下の方法でどしどしツイートしてください!

IPU MAG

×

twitter

岩手県立大学公式アカウント
IPU_official

【特集に関するアイデア・ツイートの流れ】 twitter

特集を読んだご意見・ご感想も募集していますので、公式アカウントまでお寄せください。

1 公式アカウントで「お題」を確認

「例」被災地をもっと元気にするには?」

2 twitterにアイデアをツイート

「例」被災地をクリーンエネルギー都市にし、世界中から視察にくるような魅力的な地域にする! #IPUMAG49
「例」三陸を自転車で縦断する、ツール・ド・リアスを開催。自転車で三陸を巡りながら、被災地への理解を深めることが目的。同時に観戦ツアーも企画し、日本中から人を呼ぶ! #IPUMAG49

3 投稿アイデアが次号誌面に掲載

※ツイートの際には、文末に「#IPUMAG発行号数」を付記してください。発行号数は、本号では「49」、次号では「50」と変化します。このことにより、様々なアイデア・ご意見を内容別にグループ化でき、誌面へ反映することができます。ご協力をお願い致します。
※皆様からのツイートは、本誌などで掲載させていただく予定です。ただし、誌面の都合により、全てを掲載することができない場合がありますのでご了承願います。

みなさんもツイートしてくださいね





東京から参加した複数の大学の学生たちと仮設住宅の住民たち。お茶のサロンでは幅広い年代の住民たちが集い、交流を広げている。

いわてGINGA-NETプロジェクト 被災地と学生の思いをつなぎ、 新たなボランティアの仕組みをつくる。

この夏、全国から集まった学生たちが、県内各地でボランティア活動を行いました。これは、岩手県立大学が主導する『いわてGINGA-NETプロジェクト』の取り組みです。学生と住民の交流から何が生まれたのか、新たなボランティアの試みをご紹介します。

復興の力になりたい！ 全国から1300人の学生たちが ボランティアに参加。

3月の東日本大震災津波から、約半年。被災地ではようやく避難所が閉所され、仮設住宅に生活の場を移しました。しかし、現状では生活基盤が整ったに過ぎず、被災者の心と暮らしを支えるには、まだまだ長期的な支援が必要です。一方、被災地の惨状を知り、「力になりたい」と願う学生も数多くいます。

このような被災地、被災者のニーズと学生の想いを結びつけるために、

『いわてGINGA-NETプロジェクト』です。

これは、岩手県立大学学生ボランティアセンターと、さくらネット（兵庫県）、ユースビジョン（京都市）が連携して立ち上げた、新たな災害支援モデル。住田町の五葉地区公民館を宿泊拠点にし、釜石市、大船渡市、陸前高田市などの被災地に、全国から募った学生グループをつなぐ仕組みです。

県立大学では、6月から全国各地で説明会を開き、学生の参加を呼びかけ、実施期間（9週間）の間に、全国147大学から約1300人の学生が岩手に集まり、ボランティア活動に参加しました。

学生とのふれ合いを通じて 住民同士の交流を広げ、 新たな絆をつくっていく。

県立大学学生ボランティアセンターでは、今回のプロジェクトにあたり「仮設住宅のコミュニティづくり」を目的とした独自のプログラムを開発。住民の交流を広げるお茶のサロンやお祭りの開催、子どもたちの遊びや学習の支援など、「地域の絆をつくる」様々な取り組みを学生たちの手で行いました。「学生たちは数日の間に、地域や人々に対する意識を高めます。ここでの体験は、自分の地域を見る目を変え、関わり方を変えていくことに

もつながります」と、活動を支援する山本克彦准教授は話します。

このような学生たちの活動は住民に新たな刺激を与え、継続した見守り活動に安心感を抱く人が増えていると言います。学生との交流で元気をもらう人、遊びを通して元気になる子どもたちなど、少しずつ住民の心をほぐし、絆を広げる効果も現れています。夏のプロジェクトは、いったん9月で終わりましたが、今後は「週末ボランティアワークキャンプ」を実施する予定。引き続きサロンの開催や学習支援を行いながら、長期休暇には今回の内容を縮小したプロジェクトの実施も計画しています。



拠点となる五葉基地では、県立大学の学生とNPOのスタッフが準備を行う。



仮設住宅の子どもたちとふれ合う学生。遊びの支援も大事なボランティア。



お茶のサロンでは、住民とお茶を飲みながら交流を広げている。



ボランティアバスに乗り込み、被災地に向かう学生たち。

【プロジェクト実施概要】

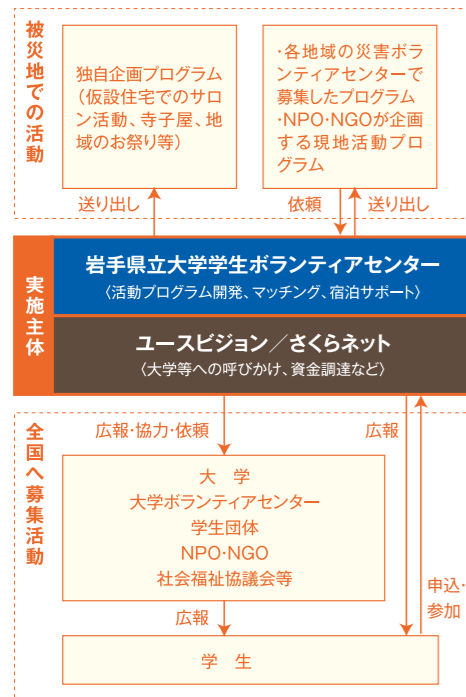
【活動期間】7月27日(水)～9月27日(火)

【活動地域】大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、住田町ほか

【活動内容】仮設住宅でのサロン活動、子ども向けの学習支援、遊び支援、お祭り等地域行事の開催支援等

【実施主体】いわてGINGA-NETプロジェクト実行委員会

【プロジェクトの流れ】



【参加学生のボランティア体験メッセージ】

菊池 将吾さん(東京工科大学)
震災をテレビでしか知らない自分もどかして、友達と参加しました。最初はどこまで踏み込んでいいのか分からなかったんですが、接しているうちに自然体でいることが大事なんだと実感。ボランティアを通して、少しでも成長できればいいと思っています。



近藤 十和さん(多摩美術大学)
サロン活動を通じて、お年寄りの方とたくさんお話しました。ボランティアというよりは、人生の先輩から教えられ、学ばせてもらっているという感じがします。ここに来ている人々と出会い、いろんな話をしました。すべての経験がとてもいい刺激になったと思います。



【受け入れを行う岩手県立大学生のコメント】

松本 唯美さん(岩手県立大学)
全国の学生さんにとって被災地は非日常な空間。ストレスを抱える人もいるので、毎日書いてもらう「振り返りシート」をチェックして、一人ひとりの様子を見守っています。運営側の苦労も多いですが、「来て良かった」と笑顔で帰ってもらえることがうれしいですね。



※1 NPO法人さくらネット/阪神淡路大震災の経験をもとに、災害に強い福祉のまちづくり事業、NPOや自治体との協働事業などを通じ、個人とコミュニティの関係づくりに取り組むNPO法人。
※2 NPO法人ユースビジョン/ボランティア活動を通して学生と地域を結ぶ活動を始め、NPOへのインターシップや就職支援、大学ボランティアセンターの設立や運営の支援などに取り組んでいる。



7.3

オープンキャンパス(滝沢)を開催

7月3日に、学長メッセージや大学説明会、学部説明会、模擬講義、キャンパスツアー、学部紹介イベントなど、多数の企画を用意して「オープンキャンパス」を開催。前年度を大きく上回る約2500名の方々に来場いただきました。高校生や保護者の皆様などに県立大学を良く知っていただくため、教職員と本学学生が一丸となって、イベントを盛り上げました。



7.10,17

総合政策学部が大船渡市市民ワークショップに協力

東日本大震災津波で被災した大船渡市の復興計画策定に向けた「市民ワークショップ(7月10日・17日)」に、総合政策学部の教員及び学生の有志が参加。それぞれ「ファシリテーター」、「運営補助」として協力しました。また、同じメンバーは5月に開かれた「復興計画策定委員会専門部会のワークショップ」にも協力するなど、同市の復興に積極的に支援を行いました。



7.15

学生イベント「七夕祭」を開催

7月15日、学生による恒例のイベント「七夕祭」が開催されました。屋上やバルーンアートがお祭りムードを盛り上げ中、アカペラや吹奏楽、軽音楽などの音楽サークルによる演奏や、ストリートダンスやダブルダッチなどのパフォーマンスに多くの人だかりができていました。また、それらのステージを回るスタンプラリーも行われ、豪華な景品が用意されていました。



7.16

県内5大学共通授業・前期「いわて学」終了

県内5大学(岩手県立大学・岩手大学・岩手医科大学・富士大学・盛岡大学)の共通授業「いわて学」。「いわての地域特性を知り可能性を探る」をテーマに5月に開講した前期は7月16日に授業日程終了。2年目の今年度は107名の学生が履修。最終授業日の午前中は、(株)岩鑄の工場で「南部鉄器」の歴史と製造現場について学び、午後は「いわての可能性を探る」をテーマに各大学混成の班編成によるグループワークを行いました。



7.21

「平泉ポータブル観光ガイド」運用範囲拡大

岩手県立大学と平泉町は、観光ガイドシステム「平泉ポータブル観光ガイド」の開発・運用を行っています。平泉の世界遺産登録に伴い、情報提供スポットを「平泉町内の世界遺産対象スポット全域」に拡大、7月21日に現地説明会を実施しました。世界遺産登録後の観光客増加への対応、観光客に優しいまちづくりの普及啓発などが期待されます。



7.23

第2回ボランティアバス運行

岩手県立大学では、学生・教職員が一丸となって復興支援へ取り組むため、「復興支援ボランティアバス」を運行しています。7月23日には本学理事長も参加し第二回目のバスを運行、宮古市での復興支援活動に参加しました。宮古キャンパスからの参加者も加わり、全学をあげての協力体制を組んでいます。



8.2,4

さんさ踊り2年連続最優秀賞

盛岡の夏といえば、さんさ踊り。県立大学も8月2日にパレードに出場。練習の成果を大いに発揮して、素敵な笑顔と足並みのそろった踊りを披露。めでたく2年連続「最優秀賞」を獲得することができました。8月4日も昨年度の受賞団体として出演しました。



8.3

ボランティア活動報告会開催

災害復興支援における岩手県立大学のこれまでの取り組みをお伝えする「災害復興ボランティア活動報告会」を、8月3日に開催しました。震災後、本学が行ってきた支援の状況について報告を行った後、学内外のパネリストによるパネルディスカッションを実施し、活発な議論が行われました。



7.10,8.28

宮古短期大学部オープンキャンパスを開催

7月10日と8月28日にオープンキャンパスを行いました。8月は模擬授業、施設見学、個別相談、学内散策などの企画を用意しました。岩手県内外から多数の方々にご参加いただき、実際の《宮短》を存分に体験していただきました。



9.3

E Tロボコン東北大会「モデル部門」2位入賞

「ETロボコン東北大会」が9月3日にアイーナで開催されました。決められた走行体にモデルを用いて、分析・設計したソフトウェアを搭載し、競うコンテストで、本学ソフトウェア情報学部のチーム「MONOLITH」が、「モデル部門」で2位に入賞しました。

岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。

I P U T O P I C S

10月29日・30日は大学祭、特別な思いを込めて2日間を盛り上げます!ぜひお越しください!

テーマ **「ai」** 意味: 私たち一人一人の「I」出会いの「会」思いやりの「愛」
大学祭は運営者、来場者一人一人がいて成り立っています。その一人一人が大学祭ひいては企画を介して出会う場として、大学祭に携わるすべての方々に感謝の気持ちや真心、愛といった形のないものを伝え、感じられるような大学祭を目指します。

○主なイベント紹介
ジャンケン大会 / ジャンケンと簡単なクイズやゲームを行います☆クイズやゲームで勝つ方には豪華賞品をプレゼント!! **アーティストライブ** / 今年は「音速ライン」によるフリーライブが行われます。 **スイーツ早食いレース(県大的選手権)** / 甘いもの好きのあなたも参加しませんか!? 飛び入り参加大歓迎! 優勝者には豪華賞品も用意しています♪ **コスプレパフォーマンスコンテスト** / 今年の講堂ではコスプレパフォーマンスコンテストを開催します。各団体の個性あふれるパフォーマンスをお楽しみください。

ステージタイムテーブル(29日)		
時間	イベント名	主催団体
10:00~10:20	オープニングセレモニー1日目	大学祭実行委員会
10:30~10:45	さんさ踊り	岩手県立大学さんさ踊り実行委員会
10:55~11:20	ELECTONE LIVE 2011	岩手県立大学エレクトーンサークル Joyful
11:30~11:55	ギタクラ大学祭LIVE2011	ギタークラブ
12:05~12:30	弾き語り	てらこ家〜ラーメン大好き家系デュオ〜
12:40~13:05	もっと大人になりますライブ	巻き〇〇〇
13:15~13:40	バンド演奏	ソフトウェア情報学部有志
13:50~14:40	県大的選手権	大学祭実行委員会
14:55~15:20	THE・大迫あやかしまやかLive	THE 大迫あやかしまやかし
15:30~16:15	モイ!〜メインステージで演奏中〜	総政バンド友の会
16:25~16:55	アップロオZ!アコースティックライブ!!	アップロオZ
17:05~17:50	ア・カペラライブ2011	ア・カペラサークル Jelly Beans
18:00~19:00	中夜祭	大学祭実行委員会

ステージタイムテーブル(30日)		
時間	イベント名	主催団体
10:00~10:20	オープニングセレモニー2日目	大学祭実行委員会
10:25~10:50	39度までヒートアップ!!Vol.2	夏風邪2011
10:55~11:20	タイマン大会	にもの紳士'
11:30~12:20	軽音スーパーライブ!!	軽音楽部
14:00~15:00	アーティストライブ	大学祭実行委員会
15:30~16:15	じゃんけん大会	大学祭実行委員会
16:30~17:20	グランドフィナーレの前説	Youth Punk Fun
17:30~19:00	グランドフィナーレ	大学祭実行委員会

講堂タイムテーブル(29日)	
時間	企画・団体
10:45~12:15	劇団ちやねる
13:00~13:45	混声合唱団Polish
14:00~15:00	D.A.T fesmo班
16:10~17:40	ドッキリ王決定戦

講堂タイムテーブル(30日)	
時間	企画・団体
11:00~12:10	合同合唱コンサート
12:15~12:30	居合道部
12:45~14:20	岩手県立大学後援会総会
15:30~16:55	コスプレパフォーマンスコンテスト

短大棟前イベント及び発表団体(両日)
吹奏楽サークル 演奏会
アカペラサークルJelly Beans ゲリラライブ2011
ストリートダンスサークルNino & ダブルダッチ
その他イベント
模擬店、フリーマーケット、スタンプラリー、オープンキャンパス、花火等。
※東日本大震災の寄付金も募っています。



※写真は昨年度の大学祭の様子

地域をつくる 希望の星たち

大好きな山田を復興するために、
町を盛り上げる力になりたいんです。

卒業生

小さい頃から、自然豊かな山田町が大好きでした。ずっと地元で暮らし、地元の役に立ちたいと思っていたので、宮古短期大学の経営情報学科へ進学。情報科学コースを専攻し、情報システム開発などを学ぶ。卒業後、ソフトウェア情報学部に入社。2011年春からソフトウェア情報学部に進み、ソフトウェア情報学専攻博士前期課程に所属。

「地元のために働きたい...」その思いは就活の時も変わらず、山田町役場を第一志望に。いつか、この町の水産業を広くPRしたいという夢を抱いて、役場に就職したんです。

でも、卒業を間近に控えた3月11日、震災が町を一変しました。自宅も流されてしまいました。3月下旬には新入職員として役場に入り、物資の搬入・搬送をサポート。現在は企画財政課に配属され、役場内のパソコンやIT、セキュリティの管理を担当しています。この分野の基礎は学んでいましたが、実際の仕事はわからないことばかり。もっと知識と経験を積み重ねて、どんな状況にも対応できるスキルを身に付けるのが目標です。

今、山田町はようやく、復興の一步を踏み出したばかりです。時間はかかるとは思いますが、一日も早く元気な町を取り戻したい。町の職員として山田を盛り上げ、住民の方々の力になっていきたいと思っています。

甲斐谷 和樹 「山田町役場企画財政課」

1990年山田町生まれ。県立山田高校を経て、宮古短期大学の経営情報学科へ進学。卒業後は、障がい者の方が使いやすいWEBサイトの研究に取り組んだ。2011年春から、山田町役場に勤務。現在は、パソコン環境の管理が仕事だが、いずれは水産業や観光に携わり、町を盛り上げていくのが夢。

地域貢献を使命の一つに掲げる
岩手県立大学。
研究に励みながら
地域に役立つ力を磨く在學生と、
仕事を通じて
地域づくりに関わる卒業生、
それぞれの熱い思いを
紹介します。

在學生

宮古短期大学の経営情報学科からソフトウェア情報学部に入社して、今春から大学院で学んでいます。研究テーマは「音声からの感情推定」。短大から大学、大学から大学院と学ぶ場が変化するにつれ、「自分の頭で考える大切さ」を実感しています。

編入して最初の1年間は、授業についていくのが大変でした。わからないことばかりなのに、質問できる友だちはいない。「頼れるのは自分しかない」と覚悟を決め、自分で調べたり先生に聞きに行きました。でも、努力すれば「不可能」はないんですね。せっかく大学に来ているのだから、目標や向上心を持って努力することが必要だと思います。

研究について壁にぶつかるとは何度もありますが、今は先生のほかに、気軽に話ができる友だちや先輩、後輩がいるので心強いです。特に他の研究室の人と話をすると、別の視点に気づかされることが多くて、とても刺激になります。

卒業後の進路はまだ決めかねていますが、この選択として、研究を生かしてインターフェース分野に進むことも考えています。「後悔しないような好きなことをやる」がモットーなので、今後の研究活動のなかでしっかりと見極め、それに向かって突き進みたいですね。

天沼 沙織 「大学院ソフトウェア情報学研究科
ソフトウェア情報学専攻博士前期課程」

1988年盛岡市生まれ。盛岡市立高校商業科を卒業後、宮古短期大学の経営情報学科に進学。情報科学コースを専攻し、情報システム開発などを学ぶ。卒業後、ソフトウェア情報学部に入社。2011年春からソフトウェア情報学専攻博士前期課程に所属。

目標や向上心を持って努力することが大切。
自分次第でどんな壁も乗り越えられる。